

## 龍谷大学における「仏教 SDGs」を通じた成果と課題（2022 年度）

2023 年 11 月 1 日

龍谷大学では、2020 年度から 2039 年度を計画期間として展開する将来計画「龍谷大学基本構想 400」における将来ビジョンとして、『まごころ～Magokoro～』ある市民を育み、新たな知と価値の創造を図ることで、あらゆる『壁』や『違い』を乗り越え、世界の平和に寄与するプラットフォームとなる」旨を掲げています。これは、まさに、持続可能な社会の実現を希求する計画といえます。

また、浄土真宗の精神を建学の精神とする本学では、阿弥陀仏が「すべての生きとし生けるものを決して見捨てない」と誓われた心（摂取不捨）と、SDGs が掲げる「誰一人取り残さない」という理念とに共通点を見出し、この仏教的な視点を通して大学構成員自らの自省と気づきを促す「仏教 SDGs」を掲げ、SDGs に資する諸事業を様々に展開しています。

これらを踏まえ、龍谷大学ならではのアプローチで SDGs の達成に貢献することを誓い、2022 年 2 月に「龍谷大学 SDGs 宣言」を発出するに至りました。

ここでは「環境」「経済」「社会」及び「パートナーシップ」の 4 つの区分に分類し、2022 年度の主な活動を通じた成果と課題をまとめました。各取組の詳細については [「龍谷大学の SDGs 取組実績」](#) をご参照ください。

龍谷大学基本構想 400 – 2039 年創立 400 周年を超えた未来に向けて –

<https://www.ryukoku.ac.jp/400plan/>

龍谷大学 SDGs 宣言

<https://www.ryukoku.ac.jp/sdgs/about/>

仏教 SDGs について

<https://retaction-ryukoku.com/concept>

龍谷大学の SDGs 取組実績

<https://www.ryukoku.ac.jp/sdgs/goal/>

## 社会分野



地域障がい者オープンカレッジ「ふれあい大学」課程

格差社会や社会的分断といった言葉が多く聞かれるようになった今、一人ひとりの心に寄り添うことや、DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）の必要性が一層高まっています。

本学では2022年5月13日、京都市とともにロシアによるウクライナ侵攻で影響を受けているキーウ大学の学生を留学生として受け入れました。この取り組みは、その後も継続して実施しています。

同学生は本学留学生別科で学びながら、地域での生活に慣れようとしています。また、京都・滋賀の小中学校などに出向き、ウクライナの文化の紹介や、戦時下の状況、避難民としての思いを伝えています。

新型コロナウイルス感染症の蔓延から約2年が経ち、人々に With コロナという意識が主流

になってきたこともあり、2022年7月に、地域で暮らす知的障がいのある人たちが、本学学生とペアを組んで授業を選択、単位認定を行う地域障がい者オープンカレッジ「ふれあい大学」課程を3年ぶりに開講しました。

また、「あっ、いいね！ 笑顔から始まる大学づくり」をテーマに、学生実行委員が2022年12月27日に「共生のキャンパスづくりシンポジウム」を対面およびオンラインによるハイブリッドで開催しました。ここでは大学の中でマイノリティの方々が感じている状況の紹介や、社会的紐帯が弱まりつつある地域社会の中で育った大学生が直面している様々な課題などが報告され、誰もが平等にそして楽しく参加できる大学環境づくりについて多くの意見が交わされました。

今後も、多様な学生が集い学ぶキャンパスづくりを推進するとともに、誰一人として取り残さない社会の実現に向けて変革の担い手となる人材を育成します。

以 上